

2018年度決算報告

学校法人京都橘学園の2018年度決算は、2019年5月27日の理事会及び評議員会で承認されました。

経常的な収入である教育活動収入、および教育活動外収入は、前年度と比較して6億2,808万円の増加となりました。収入の大部分は、大学・中高の学生生徒等納付金と、本年度開園したたちばな大路こども園の保育料で、経常収入の80.6%を占め、大学では、収容店員の変更等による新入学生の伸び、中学・高等学校においても新入生の伸びによる生徒数の増加と、こども園の開園により、学生生徒等納付金は、前年度比較で107.1%となっています。入学検定料が大半を占める手数料収入では、志願者の伸びにより、前年度比較で103.4%と増となっております。寄付金収入では、前年度は学園創立115周年・大学開学50周年であったため1億3,352万円でしたが、本年度は6,927万円と6,425万円の減額となっております。国及び京都府等から交付される補助金の事業活動収入に占める割合は12.7%で、経常費・運営費補助金は前年度対比で107.8%の増加となり、本年度からは、こども園の補助金である施設型給付費が追加され、補助金全体で前年度対比120.6%の増加となっています。

支出面では、経常的な支出である教育活動支出、および教育活動外支出が前年度より4億3,026万円増加しました。人件費では、新学科開設および入学定員増等による教職員の採用と、こども園の開園に伴う保育士等の採用により前年度比較で109.0%、教育研究経費では、本年度開設した新学科(臨床検査学科・作業療法学科)、および、たちばな大路こども園の開園により前年度比較で107.9%と増額となりました。一方、管理経費では、広報費等の学生募集の経費を削減したことにより前年度比較で86.9%と減額となりました。

経常収支差額は前年より収入・支出とも増加しましたが、例年と同水準で推移し、教育研究活動以外の特別収支を加算した基本金組入前当年度収支差額では13億4,422万円を計上しております。

基本金組入については、施設設備面の充実に伴う第1号基本金の組入を行い、将来に向けた施設設備整備のために第2号基本金、さらに、京都橘大学奨学基金への寄付に伴って第3号基本金として組み入れました。これにより、2018年度は5億2,173万円の収入超過となり、繰越支出超過額は29億350万円となりました。

本学園では2014年度に2022年までの第1次マスタープランを発表しました。このマスタープランのもと2018年度は、大学において、新学科として臨床検査学科・作業療法学科を健康科学部に開設し、中学・高等学校においては、フェスティバルホール改修等を行い、そして、滋賀県草津市に公私連携型認定こども園となる「たちばな大路こども園」を開園いたしました。

私立学園を取り巻く状況は、平成30年度版今日の私学財政(日本私学振興・共済事業団)によると、事業活動収支差額がマイナス(帰属的な収入で消費的な支出が賄えない)の学園は全国で大学法人551大学法人中217大学法人(39.4%)となっております。こうした状況にあって、本学園の経営状況を示す事業活動収支差額比率は15.3%と、全国の大学法人平均4.9%(平成29年度)より高い水準を保っており、現状においては、依然安定かつ健全な経営状態であるといえます。